

そうま維新
尾高雅夫議員



問 高齢者が安心して暮らせる地域づくりについて問う。

答 施設に頼ることなく、在宅で介護サービスが受けられるように働きかけていく。

全国的な課題でもある、少子高齢化は、相馬市においても年少人口が減少し、老年人口の増加が続いている。

問 介護施設入所待機者の人数及び将来の見込み人数について問う。

平成26年には27.4%に達するなど全国平均より早いスピードで高齢化が進んでいる。

答 本市に所在する介護施設での入所待機者数は、441名である。

75歳以上の後期高齢者も14.6%と増加傾向にあり施設への入所待機者も増加傾向であることから介護施設について問う。

問 高齢者が安心して暮らせる地域づくりについて問う。

答 施設に頼ることなく、在宅で介護サービスが受けられるように事

業者に働きかけていく。

答 民間事業者が介護老人福祉施設等を新たに設置するためには、慢性的な介護人材不足や施設整備における補助金の削減、新たな薬剤師や管理栄養士の配置等の厳しい条件が加わっているのが現状である。

では、高齢化が進む中、核家族化や老老世帯の増加などによりふえ続けるものと考えており、団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、さらに増加するものと考えている。

問 施設の建設に向けた働きかけの状況及び課題について問う。

その他の質問
・学校の開放



問 人工透析施設増設に向けた市の考えについて問う。

答 人工透析実施医療機関に対し、体制の増強を要請している。

県は5月24日に平成29

人工透析患者が市内で治療が受けられるよう、透析実施医療機関に対し、ベッド数、スタッフ数の増員等、人工透析体制の増強を要請してきたが、それぞれ施設において、検討、鋭意努力中との情報である。

年から32年までの避難地域等医療復興計画の素案を発表した。素案には人工透析の患者がふえているということから、人工透析に必要な医療機器あるいは設備の導入費補助が盛り込まれた。しかし、人材確保に関する具

体策は残念ながら示されていない。透析患者を救済する施策が一步前進したものと考えるが、市としての所見を伺う。

問 人工透析施設増設に向けた市の考えについて問う。

答 市は、市内の全ての

問 人工透析患者をふやさないための施策について問う。

人工透析の原因として、糖尿病性腎症が多いと考えられることから、今後市民に対して健康診断の受診を促すとともに、糖尿病のおそれがある人への食事や運動など指導を徹底し、新たな人



無会派
村松恵美子議員

工透析患者の発生を極力抑制するように努めていくことが肝要と考えている。

問 震災前後における人工透析患者数について問う。

答 平成22年85人、平成23年78人、平成24年72人、平成25年69人、平成26年75人、平成27年、平成28年は85人となっている。

